

砂川市少年の主張大会 ～発表者の主張全文紹介①～

最優秀賞 「楽しい人生のすすめ」

砂川中学校3年 齊藤 あおい



私は先日、友人とコンサートへ行きました。最後の曲が終わったとき、会場には溢れんばかりの拍手が起きました。

「感動した！」

あちこちから、歓声とともに聴衆の声が飛び交っていました。この時ばかりは、顔も知らない観客たちと一体になれた気がしたのです。

私たちは普段、物事を目で見て、耳で聞き、手で触るなどして理解します。その中で、特に感慨深さを感じ、何か言葉で言い表せないことを学び取る。このことを世間では「感動」という言葉で表すのが普通です。

感動という言葉の辞書的な意味は「深く物事に感じて心を動かすこと」です。心を動かすというのは、感情が大きく振れることと言っても差し支えありません。何か一つの感動が、その後の生き方に、多くは良い方向に影響を与える可能性を持っています。ですから、楽しい人生を送るうえで、感動が重要な役割を担っていることとなります。

そして、感動とは多くの人と共有できるものであり、先ほど述べたコンサートでは、名前も顔も知らないたくさんの人たちと拍手を介して、胸に迫る美しい演奏を一緒になって喝采したのです。この場合、たとえ言語の壁があったとしても、誰もが同じように物事から感銘を受けたり、感激したりできるものです。しかし、その感動が誰にでもあてはまるわけではないということを忘れてはいけません。人によって物の感じ方は違うのです。

少し前、車で移動中、窓から見える景色がとてもきれいだと言う家族にさほど共感できなかった私が曖昧な返事をしたところ、

「まあ変な子。」

と言われてしまいました。家族にとって美しいものが、私にとって、そうではなかったのです。物事の感じ方、いわゆる感動のツボは人それぞれ違うようです。そんなことは当然だと、多くの人が言うでしょう。しかし、どうも最近の世の中は、それを認めていないような気がするのです。人と違う考えを持って、周りに主張することが、とても「悪」であるかのように、世の中が、私に感じさせてきてならないのです。もちろん委縮して、引っこみ思案になり、最終的にそうなったのを世の中のせいだとする人にも非はありますが、最近の世の中、やはり自分とは違う考え方を遠ざける傾向が強くなってきている感じがしてなりません。感動に限らずとも、考え方の違いが日常生活において、大きな影響力を持つことは事実であり、自分が他人へ価値観を押しつけることのないように注意したいものです。

それでも、自分と同じ価値観を持った人がいると安心できるのもまた事実でしょう。感動のツボが似ているという点においては、互いに相性が良いと言っても過言ではありません。ですから、感動を分かち合える人は大切にすべきでしょう。

考え方や感動のツボが違う人との関わりを「冒険」とするならば、それらが同じ人との関わりは「休養」ともとれると私は考えます。そして、感動のツボは、自分がこれから一緒に人生を歩んでいくであろう人を見つけてくれる指標にもなるとも感じます。「冒険」であろうと、「休養」であろうと、たくさんの人と関わらなければ、自分の考え方も広がりません。

みなさん、感動は人生を彩ります。しかも全く減ることのない、つまりは無尽蔵の財産なのです。この機会にぜひ、自分の感覚を研ぎ澄まし、たくさんの人と関わって、心躍る人生を自分の手で作っていきましょう！これが私の主張する「楽しい人生のすすめ」です。

審査委員からの講評

「感動した！」コロナ禍にあって最近聞かなくなった言葉だなと思い、とてもうれしくなりました。人の価値や感性は、育った環境だけでなく性別、人種、宗教等々、多様なものであると思います。どうぞ、沢山の価値観や感動を体験してください。それを通して、楽しい人生の価値観や感動も変わってくると思います。